

学びの風便り

リーディングスクール通信42 R7.5.19

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



学びの改革のあゆみ 開成中学校・波田小学校



開成中学校 よい探究を支える学校づくりを目指して

リーディングスクール校として2年間の活動を終え、本年度よりアソシエイト校として、これまでの実践と経験を活かし、探究学習を一層深化させる取り組みを進めている開成中学校。本稿では、総合的な学習の時間「開成タイム」を中心とした探究活動における昨年度の成果と課題、そして今年度の展望をご紹介します。

■探究学習「開成タイム」の概要と本年度の取り組み

昨年度、探究を主軸に据えて始まった「開成タイム」は、本年度も継続して実施されます。学校が目指すのは、生徒たちが自らの興味関心に基づき、主体的に、そして伸び伸びと探究活動に取り組むことです。その実現に向けて、教員がどの程度サポートすべきか、どこまで生徒の自主性を尊重すべきかといった点については、生徒と共に考え、試行錯誤を重ねながら最適な形を模索しているところです。

講座体制については現在検討中ですが、昨年度の3年生の活動で、4クラスに対して7名の学年職員がそれぞれ講座を担当した実績を参考に、今年度の講座数を計画しています。学年ごとの活動として、3年生は10月末、2年生は1月末に予定されている発表会を大きな目標に据え、学習を進めていきます。特に3年生は、「地域との関わり」と「自分たちが追究したいこと」という二つの視点を掛け合わせながらテーマを設定します。昨年度、「地域の防災（段ボールベッドの制作、ハザードマップ作成、防災食の研究など）」、「開成中学校の立地に関する素朴な疑問の解明（古い学校要覧の調査、簡易ボーリングによる地盤調査など）」、「伝統工芸の体験と発信（松本てまりの製作、藍染め体験など）」、「郷土食の探究（全国各地の郷土料理の調査と調理実習）」といった多様なテーマに取り組んできた3年生にとって、どのようなテーマが設定され、探究が始まっていくのか楽しみです。また、2年生は職場体験を通じて社会への理解を深めながら探究的な活動に取り組む予定です。

■昨年度の成果と課題、そして今後の展望

昨年度の取り組みを通じて、生徒たちには少しずつ成長が見られ始め、発表会では、緊張感を持ちながらも真摯に課題に取り組む姿が随所に見受けられたようです。「特に3年生の発表は下級生にとって大きな刺激となり、探究活動におけるロールモデルとしての役割を果たしていた」と、小泉教頭先生も手応えを感じていらっしゃいました。この経験は、探究の灯火として今年度へと確実に受け継がれていくことでしょう。また、生徒たち自身から「〇〇についてもっと深く調べてみたい」といった意欲的に取組む声が多く聞かれるようになり、日々の授業においてもその変化が見られるとのことでした。

その一方で、生徒たちが校外での活動を希望する際に、移動手段の確保や安全管理といった物理的なサポート体制（ハード面）の整備が十分でなかったという課題も明らかになりました。生徒たちの探究心を最大限に引き出し、その活動を後押しするためにも、これらのハード面での支援をいかに充実させていくかが、今後の課題として認識されました。

このような状況を踏まえ、4月28日には3年生を対象としたガイダンスが実施され、昨年度の探究活動を振り返りながら、今年度のテーマ学習に向けた意識を高めました。

開成中学校では、生徒と教員が共に「探究者」とであるという意識を共有し、生徒の主体的な探究活動をより一層支える学校づくりを目指しています。ハード面の課題解決に取り組みつつ、生徒たちの知的好奇心と探究心を育む教育活動を力強く推進していくことが期待されます。



【図】3年生対象ガイダンス プレゼンの一部
(ナゼそこ!?ポツンと開成中より)

波田小学校 やってみたいこと、挑戦したいことが実現できる学校に！



波田小学校は、3年前「もっと早く下校できたら、子どもたちも先生方も余裕がもてるのでは」という声から、澤田真由美先生（先生の幸せ研究所代表）の支援を受け、保護者や子どもたちの協力のもと、年度途中に日課の変更（6校時：3時15分下校、5校時：2時35分下校）を行い、「ボトムアップによる働き方改革」を実現しました。その後、2年間、県の学びのパイオニア校として「多様性を受容し、やってみたいこと、挑戦したいことが実現できる学校（めざす学校像）」を目指し歩みを進めてきました。

今年度は、学校目標の実現に向け、「まつかぜ」の具体的な姿を、先生方で協議しグランドデザインに入れることにしました。

先生方から出されたキーワードは次の通りです。

学校教育目標：まつかぜ
 「ま」学び合おう 「つ」つながろう
 「か」語り合おう 「ぜ」全員が

グランドデザインを職員で検討し、決意を新たに歩み出した波田小に伺い、青柳教務主任、

～学び合おう～ 「やりたい」からの学び ねばり強い追究、 「できた」「わかった」喜び	～つながろう～ 実体験を積み重ねる 自己肯定感の高まり 興味・関心の広がり	～語り合おう～ 思いを言葉(自分の方法)にする ききあい、語りあえる 相手意識の高まり
---	--	--

清沢研究主任、新しく赴任した平林校長先生からお話をお聴きしました。

■自分たちで学校を変えることができる。うまくいかなければやり直せばいい！ 青柳教務主任

この3年間で学校の雰囲気がすごく変わってきたように感じます。そのきっかけは、3年前に行った「働き方改革」への取組だったと思います。最初は正直「年度途中に日課を変更するなんて無理じゃない」と思っていました。しかし、当時の教務主任と校長先生の提案を受け、職員みんなで検討し合い、「こうやったらできるんじゃないかな」とアイデアを出し合っていくうちに、「もしかしたらできるかも…」「いや本当にできた！」という経験をする事ができました。「自分たちで学校を変えることができる」というみんなで創り上げる経験がとても大きな財産になったと思います。この経験から先生方が「こんなことをやってみたい」と積極的にチャレンジ（職員による自主研修会など）するようになり、子どもたちからも「こんなことをやりたい」という提案（有志による音楽コンサートなど）が出されるようになりました。大切なことは「うまくいかなければやり直せばいい」ということだと思えます。昨年度末に「校舎改築で校舎間の移動が大変だから、授業の間を10分間とろう」ということで「40分授業」にもトライし、高学年を中心に2分前着席に取り組んだり、ポイントを絞り効果的な指導に挑戦したりする姿がありました。このように子どもたちや先生方の声を受け、柔軟に対応していくことが大切ではないかと思えます。今年、「まつかぜ」の「つながろう」「語り合おう」を大切に、先生方同士がつながり合い、語り合う機会を増やしていきたいと考えています。

■風越学園やリーディングスクールフェス等の研修に行き、自分の考え方が変わってきました！ 清沢研究主任

昨年度から研究主任をやらせていただき、軽井沢風越学園やリーディングスクールフェスなどに参加し、他校の実践に触れたことより、自分の考え方や子どもに対する姿勢が変わってきたなと思えます。一番変わったところは、「子どもたちへの声がけ」です。以前は、「廊下を走ってはいけないよ」「危ないじゃないか」などと言っていたのですが、今はまず「どうしたの？」と声をかけ、子どもの話を聴き、「そういうことがあったんだ」と共感するようになつた自分がいます。これは私だけでなく、波田小の多くの先生方が大きな声を出す前に、まず「どうしたの？」と聴くようになったと思えます。新しいメンバーも加わったので、人と人をつなぐ機会を意図的に仕組むようにし、語り合う場を多くし、重点研究や自主研修会を進めていきたいです。今年、3つの重点研究部会をつくりませんが、先生方の希望で所属を決め、自分のやりたい研究を深めてもらいたいと考えています。



■職員同士が語り合う姿が多くみられ驚きました。この雰囲気をさらにシンカさせたい！ 平林校長先生

この学校に赴任して、放課後職員室に先生方が集まり、語り合う姿が多くみられ驚きました。これも対話する気風が育っているからだと思えます。自主研修しようという雰囲気もすばらしいですね。これらの雰囲気をさらにシンカ・醸成できるように職員会の運営方法の工夫など、チームとなり取り組んでいきたいです。

★3年間のチャレンジの歩みをお聴きし、波田小の今年のさらなるシンカが楽しみにになりました。